

じょろん じょろん
序論（レムナントディの序論から）

なぜ40日、10日間集まって集中して祈ったのでしょうか。

40日+10日は、50日です。聖書で50は、五旬節のことです。マルコの屋上の間で集まって、約束を握って祈っていた人々の上に、五旬節の日に聖靈が臨されました。そのときから、まことの教会である初代教会が始まりました。



1. 聖餐式

そのときから、集まるたびに聖餐式を行いました。

聖餐式を通して、イエス・キリストの十字架の恵みによる救いに対する確信と感謝の告白を毎日したということです。

今日も同じです。私たちが毎日、イエス様の恵みでなければ生きることができないことを告白することです。それが毎日死んで生きるというパウロの告白です。

2. 集中

なにに集中したのでしょうか。

私たちは、罪過と罪によって死んだ者です。しかし、そのような私をイエス様が十字架のあがないによってよみがえさせてくださいました。

ガラテヤ2:20

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

「私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」これを再創造と言います。

私たちの靈的状態が変わりました。

死 → いのち = 再創造

(滅亡 → 永遠)

死からいのちに移されたことを「再創造」と言います。

私たちは、最初に創造されたのですが、罪によって死にました。

しかし、キリストとともに、また、生き返らせてください、「生きもの」としてくださったので、私たちの残りの人生、いまの人生の主人は、私ではなく「イエス・キリスト」です。

それに集中するのです。



3. 特別祈り

わたし たい かみさま ぜつたいけいかく 私に対する神様の絶対計画とみこころがあるので、それゆえ、私を生き返させてください、いまのこの世、いま私が住んでいるところに置いてくださったのです。

ときには、いまいるところが、エジプトや荒野のようなところだと思うかもしませんが、神様はあきらかにカナンの地を約束してくださいました。その約束を握って、一步一步あゆんで生きるのです。



4. 定刻祈り

たましいは、みことば祈りによって生きる（いやし）

かみさま けいかく うえ あた かみさま わたし い その神様の計画とみこころは、「上から与えられる神様のものでなければ私は生きることはできません」ということを悟らせるための、神様の計画です。

しんめいき
申命記8:2-3

2 あなたの神、主が、この四十年の間、荒野であなたを歩ませられた全行程を覚えていなければならぬ。それは、あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。

3 それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかつたマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということを、あなたにわからせるためであった。

しと はたら しよう み じゅんきょう わたし じんせい あらの きょうかい ひょうげん
使徒の働き7章を見ると、殉教したステパノが私たちの人生を荒野の教会という表現をします。
ですから、私たちがこの世を生きている間、荒野の生活です。

それゆえ、神様が上から与えられるみことばでなければ生きることができないのです。

まいにち わたし しょくじ かいた しょくじ いの とお う
毎日、私たちは食事を3回食べます。そのように食事をするように、祈りを通してみことばを受けなければなりません。

また、上から与えられる神様のものは祈りです。

いの わたし かみさま こうい おも ひと かみさま だ
祈りとは、私たちが神様になにかをささげる行為だと思う人がいますが、（もちろん、神様に出すことですが、それ以前に）神様の願われることが私を通してこの地に成就するためにするのが祈りなので、まず、神様から私たちに来るのが祈りです。

ローマ8:26「…御靈ご自身が、言いようもない深いめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。」私たちの内におられる聖靈の神様が、私のために祈ってくださると言われています。

いの かみさま く かみさま ふか いの かみさま いの
祈りも、神様から来るものです。それが、神様との靈的呼吸です。

つまり、神様が私たちに祈らせてくださるのです。

そのときこそ、まことのいやしが行われます。



ヘブル 4:12

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと靈、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考え方やはかりごとを判別することができます。

みことばは、神様です。神様が私たちの中に入つておられるとき、私たちの中に残つてゐる創世記3、6、11章の自己中心、物質中心、成功中心の残り跡は、切り落とされなければなりません。両刃の剣よりも鋭いみことばが入つて、私たちのすべてを刺し通されて、私たちの手術をされます。みことばが、たましいと靈、関節と骨髄を刺し通すとき、痛いでしよう。

私がいのちのように思つていた世の中の価値（家族、お金、名誉、人気など）それらは、結局「自分」です。自分の生きる理由、存在の理由が、この世のものであるとき、私から切り落とされるとき、みことばによつて刺し通されるとき、痛いのは当然です。神様は麻酔注射を打つてくださいません。ただ切り落とされます。それが苦難、患難に思えるかもしれません。自分のいのちのように思つていたこの世のものが、私から切り落とされるからです。10月の第2課の金持ちの青年の話、1課にある1万タラントの借金のある人のたとえがそれです。



5. まことの答え

そのように神様が私の考え方と心を掌握するとき、ほんとうに、まことの天の答えを味わうことができます。それが御座の力です。

私たちは、すでに完成された神の国を約束してもらっています。

ですから、いまは時間と空間の制約がある世を生きていますが、時空を超えた神の国、御座の力の祝福をこの世でも味わうことができます。それがまことの答えです。

学院福音化的序論を通して受けた5つのことを一か月間黙想しましょう。